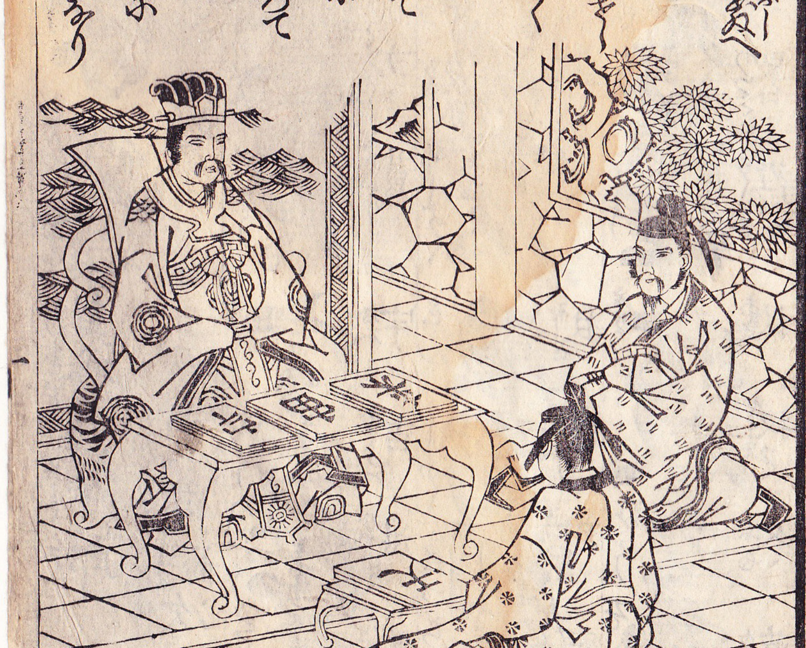
梁武帝院に諸王皆に書を教へしむるに殷鐵石といふものに令じて片紙に一字をうつして習はしむる武帝周興嗣に詔していはく卿は才智の徳あり此雑碎の文字を一処にして韻字をとりて一篇となせよと周興これを一夜に編て千の文字あるをもつて千字文と名づけしとあり而て書法の本となるその後に智永法師よりひろまりとあり



細河並輔挍合

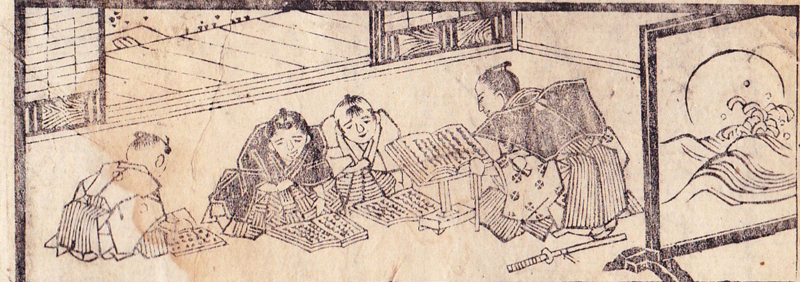
頭書數品

萬代重宝

童子字尽

江戸芝神明前

甘泉堂上梓



千字文

梁員外散騎侍郎　周興嗣次韻

千字文

天地玄黄宇宙洪荒

天地ハ玄黄　宇宙洪荒

日月盈昃辰宿列張

日月ハ盈昃　辰宿列張

寒来暑往秋収冬蔵

寒来暑往　秋収冬蔵

書のおこり

書これハ日本
むかし人のりくん
此あまでに著して
ゆきさらハすゝ
ありかろこし
舜の世より
そしまるといえ
とも書礼ハ子
家といふりの
宣益をいよ

閏餘成歳律呂調陽

閏餘ハ成レ歳　律呂調レ陽

雲騰致雨露結為霜

雲騰テ致レ雨　露結テ為レ霜

金生麗水玉出崑岡

金生二麗水一　玉出二崑岡一

剣號巨闕珠稱夜光

剣號二巨闕一　珠稱二夜光一

すのを又まなふ
きへをに書を
りつてすこまを
書籍のたくし
めてゆり漢代ふ
ふれ尺牘とよふ
日本にそも古乃
礼ふて状をを
うまりそうし

暦のおこり

まわうとみゆるハ

果珍李柰　菜重芥薑

果珍二李柰一　菜重二芥薑一

海鹹河淡　鱗潜羽翔

海鹹河淡　鱗潜羽翔

龍師火帝　鳥官人皇

龍師火帝　鳥官人皇

始制文字　乃服衣裳

始制二文字一　乃服二衣裳一

通暦ハいはく
太昊やふ人
えじめて甲暦
を作る又揚
泉物理論やを
いふ書ハいはく
神農暦目を
たてと作りて神
農よりえれど
まるともふくり
又渾化律

推位讓國　有虞陶唐

推レ位讓レ國　有虞陶唐

弔民伐罪　周發殷湯

弔レ民伐レ罪　周發殷湯

坐朝問道　垂拱平章

坐レ朝問レ道　垂拱平章

愛育黎首　臣伏戎羌

愛二育黎首一　臣二伏戎羌一

暦志ニいはく
黄帝暦を
はじむるともあり
又いはく伏羲
始めて八卦を
作る之蓋たん
て二十四氣あり
定る黄帝
これよりして姫
めて個暦を
作るともあり

遐邇壹體　率賓歸王
遐邇壹レ體　率レ賓歸レ王

鳴鳳在竹　白駒食場
鳴鳳在レ竹　白駒食レ場

化被草木　頼及萬方
化被二草木一　頼及二萬方一

蓋此身髪　四大五常
蓋此身髪　四大五常

此説あまた世
にかんれども出ず

王号のおこり

王号のおこり
は周よりこれ基
ちよりのおこる
ありて夏乃ほかに
商のぼより
まへは皆帝と
申すなるを

恭惟鞠養　豈敢毀傷
恭惟二鞠養一　豈敢毀傷

女慕貞烈　男效才良
女慕二貞烈一　男效二才良一

知過必改　得能莫忘
知レ過必改　得レ能莫レ忘

罔談彼短　靡恃己長
罔レ談二彼短一　靡レ恃二己長一

周より帝を
修して王とせ
申するは此
時より始る之

天子のをこり

天子おせる説
文にいはく
神農乃母天に
いのりて子をう
みまかるがゆへに

信使可覆　器欲難量
信ハ使レ可レ覆ス　器ハ欲レ難レ量

墨悲絲染　詩讃羔羊
墨子ハ悲二絲染一　詩ハ讃二羔羊一

景行維賢　克念作聖
景行ハ維レ賢　克念作レ聖

德建名立　形端表正
德建名立　形端表正

天子とまうす
ることはじまる
春秋元命包
にいはく女登
子をうめり聖
人の面龍の
顔なせ好く
為天子これ又
神農氏と云
女登をする子
と神農の

空谷傳聲　虚堂習聽
空谷傳レ聲　虚堂習レ聽

禍因惡積　福緣善慶
禍ハ因二惡ノ積一　福ハ緣二善慶一

尺璧非寶　寸陰是競
尺璧ハ非レ寶　寸陰是競

資父事君　曰嚴與敬
資レ父事レ君　曰嚴與レ敬

母なり

后妃おこり

后妃乃号周の
文王よりはじま
れり三代より
上つかたに正妃と
申たり妻妾
申も此義よりきそ
雎鳩の地粧
の女共てこれが

孝當竭力　忠則盡命

孝ハ當レ竭レ力ヲ　忠ハ則盡レ命ヲ

臨深履薄　夙興温凊

臨テ深ニ履レ薄ヲ　夙ニ興テ温凊ス

似蘭斯馨　如松之盛

似二蘭ノ斯馨一　如二松之盛一

川流不息　淵澄取映

川ハ流テ不レ息　淵ハ澄テ取レ映ヲ

きさ妃とあると
あり

貴人ハ女官
あり又夫人の
同官なるべし
漢の光武貴
人を置て之
夫人とす宋
乃帝中も貴宗
まくは貴人と

容止若思　言辭安定

容止若レ思　言辭安定

篤初誠美　愼終宜令

篤レ初誠美　愼レ終宜レ令

榮業所基　籍甚無竟

榮業所レ基　籍甚無レ竟

學優登仕　攝職從政

學優登レ仕　攝レ職從レ政

以友を割せり

姓のおこり

姓ハ人皇の後五姓四姓七姓十二姓の紀あり則ち十二姓ハ姓の細かハ是あり氏ハ素姓た氏結ふいふ

存以甘棠　去而益詠
存以二甘棠一　去而益詠

樂殊貴賤　禮別尊卑
樂殊二貴賤一　禮別二尊卑一

上和下睦　夫唱婦隨
上和下睦　夫唱婦隨

外受傅訓　入奉母儀
外受二傅訓一　入奉二母儀一

天子生によりて姓を賜ふ氏をすなわちゆるさるこれハ上古天皇よりはじまりつる諸氏あり盤古よりはじまる氏といふなり

蚕のおこり

捜神記に云上古のひと

諸姑伯叔　猶子比兒
諸姑伯叔　猶子比兒

孔懷兄弟　同氣連枝
孔懷兄弟　同氣連枝

交友投分　切磨箴規
交友投分　切磨箴規

仁慈隱惻　造次弗離
仁慈隱惻　造次弗離

ととまきなみゆき
まきゆるふあとふは
まし又るつゑを
のとしおぐひせ
まさてすちく毎ぬ又ゞむそて
えどるむふそるふ
たりむれてゆうく
まんぢ者又を
はまてきてらひ
まんぢとまれと
婉せんといふ

節義廉退　顛沛匪虧

節義廉退　顛沛匪虧

性靜情逸　心動神疲

性靜情逸　心動神疲

守真志滿　逐物意移

守レ真志滿　逐レ物意移

堅持雅操　好爵自縻

堅持二雅操一　好爵自縻

るゑびをとれて
き前て後又を
おもり又ゞむかい
すきりのふつき
はきんなるまと
みぐりふ都し
らくおとちふある時
又まうりてある
ふくるごとふる
いうりてけ女り
まうしんのてん

都邑華夏　東西二京

都邑華夏　東西二京

背邙面洛　浮渭據涇

背レ邙面レ洛　浮レ渭據レ涇

宮殿盤鬱　樓觀飛驚

宮殿盤鬱　樓觀飛驚

圖寫禽獸　畫彩仙靈

圖二寫禽獸一　畫二彩仙靈一

ゑへり父（ちち）を
そろて女（をんな）にをそて
いろくさんみあり
みまくに志やす
父（ちち）太まに抑ころ
きて馬（むま）を殺（ころ）し
皮（かは）を剥（はぎ）て捨（すつ）る
女又此（この）義（ぎ）を
うらみしを行（ゆき）て
そんのにけうるに
女を包（つつ）くゆき

丙舍傍啓（へいしやはうけい）　甲帳對楹（かふちやうたいえい）
丙舍傍啓　甲帳對楹

肆筵設席（しえんせつせき）　鼓瑟吹笙（こしつすいせう）
肆レ筵設レ席　鼓レ瑟吹レ笙

陞階納陛（しようかいなふへい）　弁轉疑星（べんてんぎせい）
陞レ階納レ陛　弁轉疑レ星

右通廣内（いうつうくわうだい）　左達承明（さたつしようめい）
右通二廣内一　左達二承明一

がこきれする
あぬいろくと
尋（たづね）るところに
時（とき）をさろくのち
大樹（たいじゆ）のりとうに
いる此木（このき）の枝（えだ）よ
女又皮（かは）ともに
懸りとりて
かるに虫（むし）となる
今（いま）の蚕（かいこ）これ
なりまきその

既集墳典（きしふふんてん）　亦聚羣英（えきしゆくんえい）
既集二墳典一　亦聚二群英一

杜稾鍾隷（とかうしようれい）　漆書壁經（しつしよへきけい）
杜稾鍾隷　漆書壁經

府羅將相（ふらしやうしやう）　路俠槐卿（ろけうくわいけい）
府羅二將相一　路俠二槐卿一

戸封八縣（こほうはつけん）　家給千兵（かきふせんへい）
戸封二八縣一　家給二千兵一

樹ハ桑也と
いふ木なり志
うるにつき今
乃世までく
マとりつては
むしれえむす
とらひ侍てり
又黄帝君
四妃西陵氏
をしめて蚕を
やしなひて糸
をとるといへり又
伏義蚕を化
して糸とをさ
宮室要記有
えへり
儀のおとり
まとりのくるす
すくよそじやそ
おとる是より絹
まるを準蚕子之
えへり

高冠陪輦　驅轂振纓
高レ冠陪レ輦　驅レ轂振レ纓
世祿侈富　車駕肥輕
世祿侈富　車駕肥輕
策功茂實　勒碑刻銘
策レ功茂レ實　勒レ碑刻レ銘
磻溪伊尹　佐時阿衡
磻谿伊尹　佐レ時阿衡

奄宅曲阜　微旦孰營
奄二宅曲阜一　微レ旦孰營
桓公匡合　濟弱扶傾
桓公匡合　濟レ弱扶レ傾
綺回漢惠　說感武丁
綺回二漢惠一　說感二武丁一
俊乂密勿　多士寔寧
俊乂密勿　多士寔寧

晉楚更覇
晉楚更覇

趙魏困横
趙魏困レ横

假途滅虢
假レ途滅レ虢

踐土會盟
踐土會盟

何遵約法
何遵二約法一

韓弊煩刑
韓弊二煩刑一

起翦頗牧
起翦頗牧

用軍最精
用レ軍最精

草の異名

すみれを一夜草とも云ふが一夜草[illegible]しけいの[illegible]今もつかひん又一葉草とも又いのち草とやさしき[illegible]まんひともぐさ[illegible]さうなれく

宣威沙漠
宣二威沙漠一

馳譽丹青
馳二譽丹青一

九州禹跡
九州禹跡

百郡秦幷
百郡秦幷

嶽宗恒岱
嶽宗二恒岱一

禪主云亭
禪主二云亭一

鴈門紫塞
鴈門紫塞

鷄田赤城
鷄田赤城

芹を根白菜
とりよ
あかね
せでかまやとそ
えうしろね
ぐさつむ野の
そでにゆきは
ふりつゝ
まらびを峡
禁とよ緑
青に
すなね島がりて
山ちみうてさや
いをづとかき
うずしかる
らん

昆池碣石（こんちけつせき）
昆池碣石

鉅野洞庭（きよやとうてい）
鉅野洞庭

曠遠綿邈（くわうえんめんばく）
曠遠て綿邈

巖岫杳冥（がんしうゑうめい）
巖岫杳冥

治本於農（ちほんおのう）
治ㇾ本於ㇾ農

務茲稼穡（むしかしよく）
務二茲稼穡一

俶載南畝（しゆくさいなんぼ）
俶載南畝

我藝黍稷（がげいしよしよく）
我藝黍稷

数色を
菜とよ
平に
みするとのみるも
うけがきみゆか
きへやとかし
うちえのあかり
ありまだ
法ぐどをいと
足ぐさとよ
年に
ま取さくに
秋うとぞ
おりへひより
ぐさ

税熟貢新（せいじゆくこうしん）
税ㇾ熟貢ㇾ新

勸賞黜陟（くわんしやうちゆつちよく）
勸ㇾ賞黜陟

孟軻敦素（まうかとんそ）
孟軻敦ㇾ素

史魚秉直（しぎよへいちよく）
史魚秉ㇾ直

庶幾中庸（しよきちうよう）
庶幾中庸

勞謙謹勅（らうけんきんちよく）
勞謙謹勅

聆音察理（れいいんさつり）
聆ㇾ音察ㇾ理

鑑貌辨色（かんばうべんしよく）
鑑ㇾ貌辨ㇾ色

ゑるゆのしぢ
ないろを まじへば
卯の花も色を失
見ぐさ又 いづれ
葉ぐくもりよ
詩に
むかしより
秘でぬとし
雪見草
あはれそゆき
よ
つきて
書れ
る

貽厥嘉猷 勉其祇植
貽二厥嘉猷一 勉二其祇植一

省躬譏誡 寵增抗極
省レ躬譏誡 寵增抗極

殆辱近恥 林皐幸即
殆辱近レ恥 林皐幸レ即

兩疏見機 解組誰逼
兩疏見レ機 解レ組誰逼

時なるきくや
さつまじ
志ほくぐさ
とめ咲ぶなり
宮やの中ど
あよひをうく
ミ草と又
手に
又が初の山
うつりてな
のさく なくらべ
加くしぐさくれ
なみを
いそまし

索居閑處 沈默寂寥
索居閑處 沈默寂寥

求古尋論 散慮逍遙
求レ古尋レ論 散レ慮逍遙

欣奏累遣 慼謝歡招
欣奏累遣 慼謝歡招

渠荷的歷 園莽抽條
渠荷的歷 園莽抽レ條

常夏を忍て
竹とよ
うさ千母
かくれてさける
ていざらん
あつまれわくは
れうりうけ
萩を庭見
ぐさとりふ
うき京に
うき禄ふれ
あさがくる
みへえぐさ

枇杷晩翠　梧桐早凋
枇杷晩翠　梧桐早凋

陳根委翳　落葉飄颻
陳き根委翳　落葉飄颻

遊鵾獨運　凌摩絳霄
遊鵾獨運　凌二摩絳霄一

耽讀翫市　寓目囊箱
耽レ讀翫レ市　寓二目囊箱一

かりふてら
よる人の
うさをけるよ
女郎花を
かりし草と
いふ
菊に
出れる都
さびのり
まられ
かりひぐさ
こまき〱き
かるらぐ
まれい
くらん

易輶攸畏　屬耳垣牆
易輶攸レ畏　屬二耳垣き墻一

具膳餐飯　適口充腸
具レ膳を餐レ飯を　適レ口充レ腸

飽飫烹宰　飢厭糟糠
飽きては飫二烹宰一　飢ては厭二糟糠一

親戚故舊　老少異糧
親き戚故舊　老少異レ糧

筭を錦添
築しけふ
ぶり
すゞきのかれ
なれまで
つゆそきき
うらまうえり
風やうらん
菊を百種
とりふ
歌に
あいしあまお
きぬを
わらの

妾御績紡　侍巾帷房
妾御ニ績紡ヲ　侍巾ニ帷房ニ

紈扇圓潔　銀燭煒煌
紈扇圓潔　銀燭煒煌

晝眠夕寐　藍筍象牀
晝眠夕寐　藍筍象牀

絃歌酒讌　接杯舉觴
絃歌酒讌　接レ杯擧レ觴

りよくき
ちるきぞく
白菊はしそ
なり

又
霜の菊
てくよ色し
松のとうげれ
きをそぞき
うへろとき　と
それも
しら松べ

又
秋名菊
こもいよ

矯手頓足　悦豫且康
矯レ手頓レ足ヲ　悦豫且康

嫡後嗣續　祭祀烝嘗
嫡後嗣續　祭祀蒸嘗

稽顙再拜　悚懼恐惶
稽顙再拜　悚懼恐惶

牋牒簡要　顧答審詳
牋牒簡要　顧答審詳

芒ちりてその
名をとりの秋のぐさ
うくことにかける
けきちつの玉
又とうみぐさ
金草
黄菊とも
名のしあふ
かげまの班への
とうみぐさ
きりまちとりきれ
うずみ
流まし

骸垢想浴　執熱願涼
驢騾犢特　駭躍超驤
誅斬賊盜　捕獲叛亡
布射遼丸　嵇琴阮嘯

莨菪のおこり

本草にいはく
海濱山谷及
雍州にあり又
天仙ともいふ
わがちうごくにも
あまねくもちゆる
わりくしも
さらに膝は頸を
くるしめ志を

恬筆倫紙　鈞巧任釣
釋紛利俗　並皆佳妙
毛施淑姿　工顰妍笑
年矢毎催　曦暉朗曜

はうくしちろう
をまし奇めい
たゞをちすうす
中などをしく
とる哀ひあうく
し又庵の安
蹴山蓑鬱の
洒けだりしうさ
海中もたゞと
とるるの毫を
唐土より上代
まくりしおのさ
天より今の
人是をもち
ゆるへりるとし
をはるのぶりの
ろ如くこれを
ふくしめべたん
を犯しむねを
損ぎとい人ども
人をもてるれ
最上此ものく

璇璣懸斡（せんきけんあつ）　晦魄環照（くわいはくくわんせう）
璇璣の懸斡　晦魄環照

指薪修祜（しせんしうこ）　永綏吉劭（えいすいきつせう）
指レ薪修レ祜　永綏吉劭

矩步引領（くほいんれい）　俯仰廊廟（ふぎやうらうべう）
矩歩引レ領　俯仰廊廟

束帶矜莊（そくたいきやうさう）　徘徊瞻眺（はいくわいせんてう）
束レ帶矜レ莊　徘徊瞻眺

孤陋寡聞（ころうくわぶん）　愚蒙等誚（ぐもうとうせう）
孤陋寡聞　愚蒙等誚レ

謂語助者（いごじよしや）　焉哉乎也（えんさいこや）
謂二語助一者　焉哉乎也

東都城坤布山縣花田街寓居
細河並輔挍合

天保十四卯年春　芝神明前三島町
甘泉堂　和泉屋市兵衛梓